



福井県家畜保健衛生所

〒918-8226 福井市大畑町 69-10-1

Tel: 0776-54-5104 Fax: 0776-54-5966

<https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/kaho/index.html>

手数料納付システムが追加となりました

家畜保健衛生所への手数料納付については、これまで証紙での納付に限られていましたが、コンビニエンスストア決済またはクレジットカード決済も新たに可能となりました。ただし申請者は、当所のWEBページからの申請となるため、スマホやパソコンを利用している方が対象となります。その手数料納付システムによる申請方法は次のとおりとなります。

- ①申請者（申込者）は携帯電話等から当所のWEBページの「手数料の納付方法について」をクリックし、対象となる手数料名を選択する
- ②申込入力画面で、「申請数」、「申請者名」、「連絡先電話番号」、「メールアドレス」を入力後、「ご利用規約について」をクリックし、「同意する」にチェックを入れる次に、「私はロボットではありません」をクリックし、チェックを入れる
- ③申込内容確認画面で入力内容を確認後、間違いがなければ、「登録する」をクリックする。修正がある場合は、「戻る」をクリックし、修正する
- ④申込が完了すると、入力した画面に申込番号が登録されるとともに、メールにもその申込番号が送付されてきますので、確認後、手数料納付システム画面から決済手段を選択し、決裁する
- ⑤決済完了後、申請時のメールアドレス宛に届いた決済完了メールの申込番号（12桁）を、当所職員へ開示する

このように、申請者の都合に応じ、その場で決裁（クレジットカード決済の場合）が可能となりました。実際、まだこのシステムの利用者は少ないですが、一度試してみたいかがでしょうか。

養鶏農場で発生が多いワクモについて

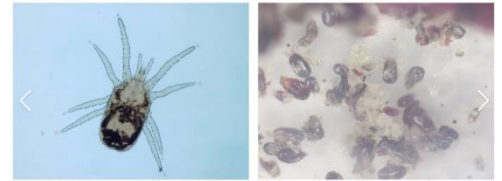
ワクモはダニの一種で、吸血により鶏に貧血を起こし、産卵率の低下や衰弱、死亡させることもあります。人を吸血すると強いかゆみや発疹、アレルギー症状を起こします。通常、ワクモは鶏や野鳥に寄生し、一世代5-9日の短いサイクルで繁殖します。昼間は鶏舎や止まり木の割れ目などに隠れ、夜間だけ鶏を襲い吸血します。鶏は吸血と刺激により安眠が妨げられて不安状態となり、夜間騒ぐようになります。通常冬場はみられませんが、冬でも温度が保たれるウインドレス鶏舎では通年発生することもあります。



【予防と対策】

- 鶏舎にワクモを持ち込まない（人や動物の移動、器材の持ち込み時に注意）
長靴や衣服を交換しましょう。特に長靴にワクモがついて侵入します。

- 器材（ラックやコンテナ等）を高温水で洗浄
成ダニは 65℃の温水で瞬時に死滅します。



- 鶏舎内への野鳥侵入防止、ネズミの駆除

野鳥（ハト）やネズミにより持ち込まれる可能性があります。

- オールアウト後の殺虫剤散布、器材の高温洗浄

薬剤耐性ができやすいので、従来使用していたものとは異なる薬剤を使いましょう。

殺虫剤はワクモ卵には無効なので、1週間間隔で2-3回散布しましょう。

有効な市販殺虫剤：有機リン系（ネグホンなど）、カーバメート系（ボルホなど）、ピレスロイド系（キンチョーETB乳剤など）

ワクモ専用殺虫剤（商品名）：ゴッシュ（散布）、エコノサド（散布）、エグゾルト（飲水）

※ 新しい薬剤なので値段は高いですが、効果も高いです。

ゴッシュは従来の殺虫剤と作用が異なり、卵のふ化、幼ダニの脱皮を抑えます。

- 1か月の空舎期間、導入前に再度殺虫剤を散布

ワクモは吸血しなくても半年以上生存します。吸血していないワクモは吸血したワクモより殺虫剤に対する抵抗性が弱いと言われており、対策のチャンスです。

- 飼育環境の衛生管理（ワクモの隠れ場所をなくしましょう）

ワクモの巣、ほこりの掃除、鶏糞の除去、隙間の掃除、洗浄をしましょう。

- シリカや珪藻土を使用

ワクモの体を傷つけ、吸水性能によりワクモ体内の水分を奪い、脱水状態にして死に至らしめます。環境負荷もなく、鶏への影響もありません。

- 段ボールをワクモトラップとして利用（ワクモが隙間に隠れる習性を利用）

定期的に新しい段ボールに交換しましょう（長期間放置しておくこと逆にワクモが増える要因となります。）

乳房炎検査について

乳房炎対策は、酪農を営む上で非常に需要です。乳房炎対策の一助として当所では乳房炎検査（手数料：580円/検体）を実施していますので、ご利用ください。

【乳房炎を疑う症状がみられたら...】

『体細胞数が高い』、『ブツが出る』、『乳房にしこりがある』など、乳房炎を疑う症状がみられた場合は、乳房炎検査を実施し、原因菌に応じた薬剤を使用しましょう。

不適切な抗菌薬による治療は、効果がみられないだけでなく、薬剤耐性菌が出現する原因となりますので注意が必要です。

【乳房炎検査の概要】

★ 検査でわかること

- ・乳汁から検出された菌の種類、菌数
- ・検出された菌の薬剤感受性

★ 検体の保管について

採取当日に当所に搬入できない場合は、冷凍庫で保管してください。

★ 検体の情報について

以下の事項を必ずお伝えください。

- ・牛個体識別番号
- ・検体を採取した分房
- ・症状（乳房や乳汁の状態、全身症状など）
- ・その他（治療歴など）

★ 検体の採取方法について

検体に雑菌が多く混入すると、乳房炎の原因菌を特定することができません。

以下の手順で採取し、雑菌の混入を防いでください。

1. 乳頭についた汚れをペーパータオルなどでふき取る
2. 最初の2～3搾りをカップなどに捨てる
3. アルコール綿花で乳頭口を消毒する
4. 異物が入らないように、乳汁を採取する（容器やフタの内側に乳頭などが触れないよう注意！！）

検体の採取には滅菌容器を使用してください。滅菌容器が必要な場合は家畜保健衛生所にご連絡ください。

手指・皮膚の消毒について

家畜の飼養衛生管理基準において、飼養者が農場等に出入りする際、手指を消毒してから作業をすることが明記されています。ドラッグストア等で市販されており、手指等の消毒に用いられている「商品名：オスバン消毒液 10%」を使用した消毒液の作り方とその使用方法を示しましたので、参考にしてください。

消毒薬について（ベルザルコニウム塩化物液「商品名：オスバン消毒液 10%」）

1. 価格

参考 500 ml 900 円程度（6 月末時点）

2. 使用濃度



手指・皮膚消毒、浸漬消毒では 0.1%

3. 作り方



① 水 500 ml を
ボトルに入れる

② キャップいっぱい
(5 ml) に液剤を入れる

③ ボトルに溶剤 5 ml を
入れる

☆ 浸漬する場合は、プラスチックコップなどに目盛りを入れて使うとよいです。



④ 水 5 L を浸漬容器に入れる

⑤ 溶剤 50 ml を測る

⑥ 溶剤を入れ作業服を 10 分浸漬

* 有機物・酸・石鹼の混入で消毒効果低下

県内の主な家畜伝染性疾病発生状況

畜種	病名	発生戸数	発生頭数	死亡・廃用頭数
乳用牛	牛伝染性リンパ腫	1	1	1
	牛ロタウイルス病	1	1	0
	牛クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症	1	1	1
	牛コクシジウム病	1	1	1
肉用牛	破傷風	1	1	1
豚	豚パストツレラ症	1	3	3
	豚レンサ球菌症	1	1	1
	豚増殖性腸炎	1	2	2
	豚クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症	1	2	2

(令和3年12月1日～令和4年5月31日)